

ベンチを活用した切花用隔離栽培システムの構築

【研究概要】

切花栽培において鉢物生産技術を活かすために既存ベンチの利用が望まれるが、ポットでの切花栽培技術は確立されていない。そこで、都内で需要が高く生産量の多いランキユラスを用い、花農家の間で使用が多い鉢サイズ（3.5号～5号）の切花形質への影響を明らかにし、ポット栽培への適性を評価した。その結果、鉢サイズの違いにより、明らかな生育差が生じ、切花形質にも大きな影響を与えた。平均採花日は5号区と3.5号区で約1週間の開きがあり、鉢サイズの大きい区でより開花が早かった。次に、切花形質については特に、切花長（平均値）で顕著に差が表れ、5号区で最も長くなり、有意な差が認められた。また、1株あたりの採花本数は3.5号区と4号区で差が小さく、5号区では他区の約2倍採花できた。出荷規格達成率では3.5号区と比べて5号区で高くなり約10倍であった。以上のことから、切花形質・収量に問題がなく、栽培コストも掛からない5号区を高く評価した。